

ジオテック ヘッドスペック測定器Ⅱ

～ 取扱説明書 ～

ジオテック・ヘッドスペック測定器Ⅱは、ウッド、アイアン、ウェッジ、パターのヘッドに対して、次の項目を測定するための測定器です。

- ロフト角 ●ライ角 ●フェイス角 ●ソール角
- フェイスプログレッション ●ホーゼルオフセット

「ジオテック・ヘッドスペック測定器Ⅱ」を正しく使用する為には、ヘッド中心線、ヘッド固定方法を始め、様々な測定基準の決定が必要となります。測定する前に後述の内容を確認し、作業を行ってください。

1- 内容



<本体>



<フェイス角測定器>



<ロフト角度器>

2- ヘッド中心線の求め方

①フェイス中心基準

イラストAのように、スコアライン方向での最長フェイス距離に対し、半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。(本基準は、主にウッドに採用することが多い。)

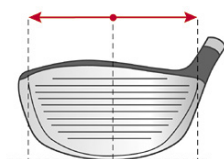
②スコアライン中心基準

イラストBのように、最長スコアラインの横半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。(本基準は、主にアイアンに採用することが多い。)

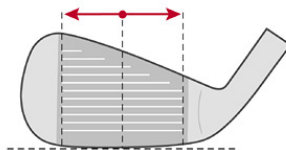
③ブレード中心基準

トップブレードの半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。(本基準は、主にパターに採用することが多い。)

(イラストA)



(イラストB)



※ヘッドの垂直方向は、ヘッドの水平状態をどのように定義（任意）するかによって変化します。

3- クラブの固定方法

クラブを固定するための2個のシャフトクランプボルトを、両方とも十分に緩めます。シャフト固定プレートを外し、写真①のように、シャフトがV字ブロックの溝に沿うように当てがいます。ヘッドの固定方法が任意の基準（下記参照）となるように、シャフトクランプボルトをしっかりと締め付けクラブを固定して下さい。（2個あるボルトを各々少しづつ締め付けると良い。）

(写真①)

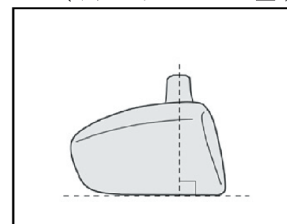


①ソール基準

イラストDのように、ヘッドのソール角、及びフェイス角に関わらず、ソール部にある任意の基準によるヘッド中心線（2参照）を、測定器本体の台座（以降台座）に平面的に設置させた状態。

※近年のウッドでは、ライ角を合わせた状態で、自然にソールさせた時をソール基準とする場合もあります。

(イラストD ソール基準)



②フェイス角0度基準

イラストDの状態、さらにヘッドのフェイス角を0度にて固定した状態。

4- ライ角の測定

スペックのフェイス角通り（3②参照）にヘッドを固定します。次に測定器のライ角ノブを調整し、台座にライ角測定方法が任意の基準（下記参照）となるようにクラブを固定して下さい。（注意：各基準が正確となるように、各々の基準設定を再確認し、微調整を行ってください。）

写真②のように、測定器のライ角メモリを読み取ることでライ角が測定できます。

(写真②)



バーニア目盛りを採用

ノギス等で多く持ちられる、小数点以下を読みやすい目盛り
通常、上目盛りの「0」と重なる場所でライ角を読み取りますが、小数点以下は読みにくくなっています。そこでバーニア目盛り「上の5」を使用し、下記のような概ねの見方ができます。

バーニア目盛りが、最寄の下目盛りより若干右にある場合は小数0.5未満
バーニア目盛りが、最寄の下目盛りより若干左にある場合は小数0.5より上
バーニア目盛りと下目盛りが一致した場合はジャスト0.5度
を指します。



①ソール中心基準

任意の基準によるヘッド中心線（2参照）と、台座の中心が同位置となるように台座をスライドさせ調整します。同一の厚みであるテンプレート（名刺等の代用で可）を2枚用意し、写真③のようにソールのトゥ側とヒール側の両方から各々1枚ずつ差し込みます。ソールと台座が接触している箇所ではテンプレートは止まりますが、2枚のテンプレートの端がフェイス中心から等距離となるようにライ角ノブを調整して下さい。ライ角を調整した際は、ヘッド中心線と台座の中心線が常に同位置となるように、台座の位置を再調整して下さい。

（本基準は、主にウッドに採用することが多い。）

(写真③)



②スコアライン平行基準

写真④のように、フェイス角測定器のメモリ側にある平行部分をフェイスに当てがい、スコアラインと平行となるようにライ角ノブを調整して下さい。
(本基準は、主にアイアンに採用することが多い。)

(写真④)



5ー ロフト角の測定

①オリジナルロフト

予め任意の基準で測定したライ角 (4参照) となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がソール基準 (3①参照) となるようにクラブを固定して下さい。専用分度器を台座のメモリにではなく、フェイスに対して垂直状態でフェイス中心に置きます。写真⑤のように、分度器のメモリ部分をスライドさせ、フェイスロールのあるヘッド (主にウッド) の場合はロールの頂点、フェイスが平面的なヘッド (主にアイアンやパター等) の場合は、フェイスに完全に沿うようにあてがいます。分度器のメモリを読み取りオリジナルロフト角を測定します。

(写真⑤)



※オリジナルロフト角を測定の際、付属の分度器では、フェイスに対して垂直状態でフェイス中心に置くことが不可能な場合があります。その際は、通常のプロトラクターを利用して下さい。

②リアルロフト

予め任意の基準で測定したライ角 (4参照) となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角0度基準 (3②参照) となるようにクラブを固定して下さい。専用分度器を台座のメモリに対して垂直状態でフェイス中心に置きます。写真⑥のように、分度器のメモリ部分をスライドさせ、フェイスロールのあるヘッド (主にウッド) の場合はロールの頂点、フェイスが平面的なヘッド (主にアイアンやパター等) の場合は、フェイスに完全に沿うようにあてがいます。分度器のメモリを読み取りリアルロフトを測定します。

(写真⑥)



6ー ウッドのフェイス角の測定

予め任意の基準で測定したライ角 (4参照) となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がソール基準 (3①参照) となるようにクラブを固定します。写真⑦のように、フェイス角測定器を台座に取り付け、フェイス角測定器の矢の両端が、フェイス中心から等距離になる位置に合わせます。フェイス角インディケータをフェイスに軽く接触させます。フェイス角測定器のメモリを読み取ることでフェイス角を測定できます。

(写真⑦)



7- ソール角の測定

始めにリアルロフト (5②参照) を測定します。次にバウンスソール、スクープソールのどちらの場合でもヘッドをソール基準 (3①参照) にて固定し、ソールがフラットな状態でのオリジナルロフト (5①参照) を測定します。次に予め測定してあるリアルロフトの数値からオリジナルロフトの数値を差し引きします。算出された数値がソール角となります。(下記、例参照)

※ソール基準固定時に、フェイスがフック方向に向く場合 (算出数値がプラス) はバウンスソール、スライス方向に向いた場合 (算出数値がマイナス) は、スクープソールとなります。

(例)

①	リアルロフト	(フェイス角0度基準でのロフト角)	5 6°
	オリジナルロフト	(クローズ方向に回した時のロフト角)	4 4°
	ソール角	(バウンス)	+ 1 2°
②	リアルロフト	(フェイス角0度基準でのロフト角)	2 8°
	オリジナルロフト	(オープン方向に回した時のロフト角)	3 0°
	ソール角	(スクープ)	- 2°

8- フェイスプログレッションの測定

予め任意の基準で測定したライ角 (4参照) となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角0度基準 (3②参照) となるようにクラブを固定します。写真⑧のように、定規などを利用し、台座のメモリにあるシャフト軸線から、ヘッドのリーディングエッジの頂点までの長さを測定 (台座のメモリに対し垂直方向) します。この値がフェイスプログレッションであり、起点であるシャフト軸線を0ミリ、それよりリーディングエッジが飛球線方向に前進している場合をプラス、後退している場合をマイナスで表示します。

(写真⑧)



9- オフセットの測定

予め任意の基準で測定したライ角 (4参照) となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角0度基準 (3②参照) となるようにクラブを固定します。直角部分のある定規や分度器などを利用して、直線部分が台座に対して垂直となるように、ヘッドホーゼル部の飛球線側の垂直線に合わせます。その延長線をオフセット測定の起点と定め、その起点からヘッドのリーディングエッジの頂点までの長さを測定 (台座のメモリに対し垂直方向) します。この値がオフセットとなります。